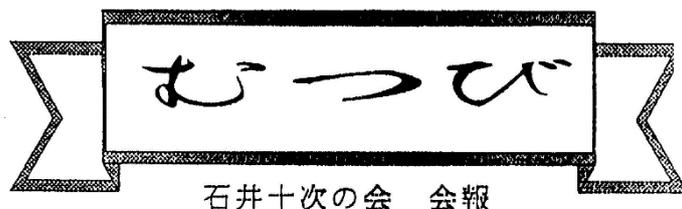


2024年
(令和6年)
6月13日



321号

「石井十次の会」活動報告と所感

石井十次の会

会長 橋田 和実

宮崎県の偉人であり、「児童福祉の父」と言われる石井十次は、高鍋町で生まれ、明治初期、医師を目指して岡山に移りますが、医師になることを断念し、孤児教育に専念します。養育の中で、学校教育と実業教育を行い、延べ3000人以上の孤児たちを救済しました。明治後期になって都市化が進む岡山から、自然豊かなふるさと宮崎の茶臼原へ孤児院を移転し、大自然の中でみんなで開墾をしながら農作業を通してしっかり子どもたちを養育しました。

現在も石井記念友愛社の子どもたちは毎年20アールの水田で田植えを行います。すべて手作業で行い、先輩達を見習いながら、小学生は苗取り、中・高生は植え方を手際よく進め、秋には稔った稲を鎌で手刈りします。集団で行う田植えと稲刈りは労作と称し、これで得た小遣いで明治時代の維新や岡山孤児院発祥の原点に触れるために研修旅行に出かけます。これらが子どもたちの忍耐力を育み、清らかで世の為、人の為に役立とうとする精神を養います。

子どもの貧困がいわれる現代社会にあって、友愛社は石井十次の精神をしっかりと受け継いで子どもたちに惜しみない愛情を注ぎ、志を育て良き出会いをつくり、素晴らしい人材を輩出しようとしています。自然との共生を求め、孤児院を茶臼原に移した石井十次の精神は今も尚、石井記念友愛社の養育方針に脈々と受け継がれています。

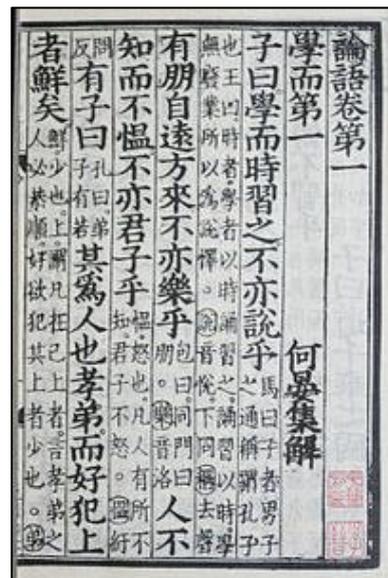
現代の日本人は石井十次の精神をもっと見習い、変化の激しい不確実な時代を乗り越えなければなりません。今こそ世のため人のために役立つ精神的にも身体的にもたくましい人材を育てるべきです。それが情緒の時代を生き抜くことにつながるのではないのでしょうか。

令和5年度の石井十次の会活動はコロナ感染が第5類となって、少しずつ以前のように近づきつつあります。去る3月16日に幹事会を行い、続いて5月12日の総会で令和5年度の事業報告と収支決算並びに令和6年度の事業計画と収支予算をそれぞれ審議していただきました。令和5年度は個人会員611名、企業団体会員73名の皆様が会費を納入していただきました。収入は7,185,185円、支出は6,093,038円となり、次年度に1,029,147円繰り越すことになりました。また、奨学金基金残高は13,519,985円で「石井十次の会」積立残高は1,600,049円となりました。これらは4月6日に監査を受けております。おかげさまで皆様方のご支援、ご協力により、「石井十次の会」活動、収支状況、基金積立は良好に推移しております。

また、「石井十次の会」奨学金を受給している卒園生の皆さんは令和6年度8名となり、大学や専門学校に通うとともに、既に社会人となって立派に活躍している方もおられます。自立し、社会の為に役立とうとして懸命に働く姿は頼もしい限りです。これからも私たちは「石井十次の会」活動を通して友愛社を支援し、立派な子どもたちを育てる一助となるよう努力して参りましょう。

石井十次、14歳にして晩翠学舎に学ぶ — 論語を学び「仁」を体得 —

石井十次資料館にある「石井十次履歴表」によると、十次は14歳のときに晩翠学舎に入塾します。晩翠学舎は明治11年に旧高鍋藩士・田村義勝たむらよしかつが興した私塾です。藩校明倫堂は明治6年に閉校になったので、青少年の教育の場がなくなったことを嘆いた田村が、青少年教育のために興しました。この塾では明倫堂と同じ教育を施しました。原則として生徒は寄宿舎に入り、そこから塾に通って勉学に努めました。塾の日記に「悉皆寄宿購読しつがいきしゆくこうどく」と記録されています。「全員が寄宿して勉学する」という意味です。塾では生徒は勉強漬けの日々を送ったのです。塾長は田村が務め、教師も兼ねました。元明倫堂教授で家老も務めた城勇雄じょういさおを教師に招きました。城勇雄はすぐれた漢学者で、論語の講義を担当しました。十次は城の論語の講義を聴き、論語を深く理解したと思われる。



十次が学んだ論語

論語は、古代中国（春秋時代）の思想家・孔子の教えを弟子たちが記録したものです。孔子は人間の正しい生き方じんを弟子たちに指導しました。特に理想的道德「仁」の意義を説き、理想的秩序「礼」の姿を伝えました。「仁」は孔子がはじめて提唱した道德観念で、礼に基づく自己抑制をもって、他者を思いやることを意味します。それはいつくしみの心であり、他人へのなさけであり、愛情であります。仁は一言では表せない広くて深い意味があり、道德思想の中心に据えられ、義、礼、智、信などの徳目を包含する根本的な徳目と考えられてきました。十次は城先生の論語の講義を聴き、人間は「仁」に生きるべきこと、またいかなる時も「礼」を忘れないことを学びました。十次は晩翠学舎で1年3ヶ月学ぶことにより「仁」を体得したのです。



児島虎次郎「なさけの庭」

十次は6年後、キリスト教に入信し、「神の愛」を学びます。明治20年4月、十次は貧児・前原定一を預かったことから、孤児救済を始めます。十次の心には、論語で学んだ「仁」とキリストの「愛」がありました。岡山孤児院の運営は、十次にとっては「仁と愛」を実現することにほかなりませんでした。

児島虎次郎の名画「なさけの庭」には、十次の「仁と愛」の心が十分に描かれています。

また、先月号で述べた「敬の精神」（心をととのえるために、きちんとした服装をする）もあらわれています。

参考：児島虎次郎「なさけの庭」、黒木晩石著「石井十次」

（編集委員 石川正樹）



方舟館からの お知らせ

明治末期、岡山から移築され、石井記念友愛社の敷地内に立つ方舟館。現在は石井十次資料館の案内窓口、また、石井十次の会事務局として使われています。

～石井十次の会事務局からご報告とお礼～

5月18日(土)令和6年度給付型奨学金奨学生選考委員会が開催されました。

今年度申請者は継続5名、新規3名、計8名でした。提出された必要書類を選考委員5名により厳正に審査し、8名全員を今年度の奨学生に決定いたしました。

新規1名は大学卒業後、資格取得のために大学院に進学した友愛園卒園生です。

会員の皆様から頂いております会費や寄付金により、志高い学生の学びの機会が更に広がっていることをご報告し、あらためて感謝申し上げます。

奨学生からのお礼の手紙を1通ご紹介いたします。

今回は奨学金を頂きありがとうございます。私は今、専門学校でトレーナーの勉強をしています。トレーナーの中でも、パーソナルトレーナーになりたいと思っています。パーソナルトレーナーになるには、幅広い知識と技術が求められていて簡単ではありません。だけど自分で決めたことなので頑張っていきたいと思います。

またスポーツクラブでアルバイトもしています。週5日入ってるので、トレーナーとしての実践が来ています。とても勉強になりいろんなトレーナーの方との関わりも出来てきました。

今の自分の環境にしっかりと感謝して、自分の夢を叶えられるように日々成長していきたいと思えます。

今回の奨学金のように自分の将来の為にいろいろな方がサポートしてくださっていることも忘れずに、必ず自分を応援してくださっている方の期待に応えられるようにしたいと思います。

(令和5年度友愛園卒園生・Rさん)

★新会員のご紹介(敬称略)

【宮崎市】山名まゆみ【延岡市】荒木野恵利子【小林市】山之口武博【岡山県】難波歩

★ご寄付をいただきました(敬称略)

【宮崎市】西野宏 西野悦子 山崎正彦 山崎美智枝 松尾フジ子 芥川恵子 野坂敬 黒木国昭 原野茂盛【都城市】平井良子 荒木秀一 黒岩高広 岩見智子 山下和子【延岡市】川並順子 山崎きよ子【小林市】山之口武博【日向市】小川修【西都市】鬼塚長幸 黒木三鶴 石川健【えびの市】松永康二【三股町】福山陽子【高原町】岡元有子 西村四男 西村さと子 西川嘉宏 森山雅之【高鍋町】池田サワ子 河原清子 高橋紀子 永田剛正 富田美智子 高橋裕子【木城町】長友英親【埼玉県】滝澤民夫【千葉県】金平万吉【東京都】児玉公人 児玉千恵美 柳田せい子【神奈川県】篠原勝 富田速人【愛知県】栗崎教雄【京都府】千田悦子【福岡県】田中賢二 山崎数彦 渡邊福 貝島由香【熊本県】西崎緑【大分県】植木洋子

*ここまでの掲載者は編集等の都合により5月20日までのものとしています。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

〒884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会
石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@ki.jo.jp

編集後記

●十次の会会長・橋田和実様から巻頭言をいただきました。西都市長として多忙な業務のなかで、会長として12日の「十次の会総会」、18日「奨学生選考委員会」も主導していただきました。いろいろなご尽力に深く感謝いたします。

編集委員長 竹之下悟